

平成 28 年度

新入生の生活に関する調査報告書

平成 28 年 9 月

お茶の水女子大学

はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センターが平成 23 年度から実施している「新入学生（学部）とその保護者を対象に実施した調査」の平成 28 年度版です。

調査の目的は、学生本人および保護者の大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に行うための基礎資料とすることであり、新入学生およびその保護者を調査対象として実施してきました。調査内容は、出身高校、家族、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（入学生調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（保護者調査）などであります。

この調査は、学生の保護者を対象とした学内で唯一の公的調査として位置づけられており、大学としてより充実した学生生活を支援する上での貴重な資料として活用させていただいております。

末筆となりますが、本調査にご協力してくださった本年度新入学生とその保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。

平成 28 年 9 月吉日

国立大学法人 お茶の水女子大学
理事 副学長
学生・キャリア支援センター長
高崎 みどり

平成 28 年度新入生調査報告書のポイント

- 1. 新入生の 90.6%は「お茶大を第一志望」として入学し、学びに対する意識が高い**
 - ・本学が第一志望である新入生は 90.6%（昨年度より 2.8 ポイント増加。二年連続増加）
 - ・「大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動」において「大学の授業」と回答した学生は 98.6%（平成 27 年度は 99.5%）
- 2. 実家から通学する学生は約 6 割、自宅外学生は約 4 割であり、仕送りは縮小傾向**
 - ・入学後の住居の予定として、実家から通学 57.1%、賃貸アパートやマンション居住予定は 29.3%、同様に国際学生宿舎は 17.3%、お茶大 SCC は 11.1%である。
 - ・実家から「仕送りはない」と回答した学生は 9.9%（昨年度より 5.1 ポイント増）
- 3. 大学生活での不安および期待する学生支援**
 - ・大学生活に不安を感じること 第 1 位「授業や単位」71.9%
第 2 位「人間関係」56.5%
第 3 位「就職や将来」55.1%
 - ・保護者調査では、「就職支援」に期待する人が 85.7%と最も多く、文教育学部や生活科学部では 9 割に近い保護者が大学に就職支援を期待している。
- 4. 卒業後の進路希望として、大学院進学希望は全体で 46%であり、理学部が特に多い**
 - ・卒業後の進路希望（複数回答）は、「民間企業に就職する」が 55.1%、「大学院などに進学する（海外含む）」が 46.0%である。理学部での大学院希望者の割合は 71.4%と最も多い。

目次

調査の概要	2
第1章 「新入生調査」の結果	4
(1) 出身高校	4
(2) 家族構成	6
(3) これまでの進路選択や学生生活	7
(4) 大学入学後の生活の予定	9
(5) 将来の進路	17
第2章 「新入生の保護者調査」の結果	22
(1) 家庭の暮らし向き	22
(2) 親の職業・学歴	25
(3) 大学生生活の不安・心配事	28
第3章 新入生および保護者調査の結果－奨学金・学生寮に関するクロス集計－	32
(1) 問題・目的	32
(2) 奨学金に関する結果	32
(3) 学生寮に関する結果	43
(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較	52
第4章 考察および今後の課題	56
(1) 平成28年度新入生の特徴と考察	56
(2) 奨学金と学生寮に関する考察	57
(3) 学生・キャリア支援における課題	58
付表	
1. 調査票（新入生調査）	59
2. 調査票（保護者調査）	67
3. 基礎集計表（新入生調査）	73
4. 基礎集計表（保護者調査）	79

執筆担当者

高崎 みどり（副学長、学生・キャリア支援センター センター長）
担当：はじめに

中川 まり（学生・キャリア支援センター 准教授）
担当：1章、2章、4章（1）（3）、

三浦 憂紀（学生・キャリア支援センター アソシエイトフェロー）
担当：調査の概要、3章、4章（2）、付表3、付表4